ビ ワ 生 育 情 報

第　１　０　報
千葉県農林水産部
令和５年７月号

本年は、着花房率が平年より高く、果樹カメムシ類の被害は少ない年でした。一方で、圃場や品種によっては、寒害や高温障害(紫斑症や日焼け)の発生が多くみられました。
また、２月以降気温が高く推移し、収穫期は平年より早くなりました。

１　本年度産果実の特徴

（１）収穫期

収穫期を表１に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が５月 18 日、５月 25 日、５月 29 日、「大房」が５月 22 日、５月 28 日、６月１日、「田中」が５月 29 日、６月１日、６月５日であった。収穫盛期は３品種共に平年より７～13 日早く、前年より５～６日早かった。

表１　収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期（月．日）			収穫盛期（月．日）			収穫終期（月．日）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.18	5.27	5.24	5.25	6. 1	5.30	5.29	6. 5	6. 3
大 房	5.22	6. 2	5.30	5.28	6. 6	6. 3	6. 1	6.10	6. 7
田 中	5.29	6.10	6. 2	6.1	6.14	6. 7	6. 5	6.18	6.10

平年：平成５年～令和４年の平均

（２）果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質を表２、３に示した。果重は「楠」が 47g、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 77g、71g であり、「楠」は平年の 91%、「大房」は 97%、「田中」は 96%であった。

横径は「楠」が 4.4cm、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 5.2cm、4.9cm であり、３品種とも平年並みであった。縦径は「楠」は 4.5cm、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 5.3cm、5.5cm であり、「楠」は平年よりやや小さく、「大房」、「田中」は平年並みであった。

果形指数は「楠」が 0.96、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 0.98、0.90 であり、３品種とも平年並みであった。

本年は、着花房率が平年より高く、収量は平年より多かった。一方で、圃場や品種によっては、１月下旬の寒波の影響により、寒害が多く発生した。

（３）糖度及び酸度

糖度は「楠」が 12.9、「大房」、「田中」は３地区の平均でともに 11.6 で、３品種とも平年より高かった。

酸度は「楠」が 0.16、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 0.17、0.38 で、「楠」、「大房」は平年並み、「田中」は平年より高かった。

（４）食味

果肉硬度は「楠」が 0.49、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 0.55、0.53 で、３品種とも平年よりやや低かった。

糖酸比は「楠」が 81、「大房」、「田中」は３地区の平均でそれぞれ 73、31 で、「楠」、「田中」は平年より低く、「大房」は平年並みであった。

（５）病害虫及び生理障害の発生

本年は、果樹カメムシ類の飛来数及び果実への被害は少なかった。一方で、着色期以前から着色期にかけて気温が高く、強い日差しがあったため、圃場や品種によっては紫斑症や日焼けが多く発生した。

表２ 果実の大きさ

品種	調査地点	果重(g)			横径(cm)			縦径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	47	52	51	4.4	4.5	4.4	4.5	4.8	4.7	0.96	0.94	0.93
大房	青木	69	77	61	5.0	5.2	4.8	5.1	5.3	5.0	0.97	0.98	0.96
	南無谷	79	78	75	5.2	5.2	5.1	5.3	5.4	5.4	0.99	0.97	0.94
	暖地園研	83	83	74	5.4	5.4	5.1	5.4	5.5	5.4	0.99	0.97	0.95
	平均	77	80	70	5.2	5.3	5.0	5.3	5.4	5.2	0.98	0.97	0.95
田中	青木	66	72	59	4.8	5.0	4.6	5.2	5.4	5.0	0.91	0.92	0.91
	南無谷	70	71	79	5.0	4.9	4.8	5.7	5.5	5.5	0.89	0.90	0.87
	暖地園研	77	78	67	5.0	5.1	4.8	5.6	5.6	5.1	0.90	0.92	0.94
	平均	71	74	68	4.9	5.0	4.7	5.5	5.5	5.2	0.90	0.91	0.91

果形指数：横径／縦径

平均：３地区の平均値で平年値は平成５年～令和４年の平均

表３ 果実品質

品種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	12.9	12.5	12.8	0.16	0.14	0.23	0.49	0.52	0.49	81	91	55
大房	青木	11.4	10.8	11.4	0.14	0.15	0.18	0.56	0.56	0.57	84	78	63
	南無谷	12.1	10.7	11.4	0.14	0.17	0.22	0.56	0.56	0.59	89	68	52
	暖地園研	11.4	11.4	11.5	0.25	0.18	0.21	0.54	0.58	0.57	46	68	56
	平均	11.6	11.0	11.4	0.17	0.17	0.20	0.55	0.57	0.57	73	71	57
田中	青木	11.4	11.2	12.8	0.43	0.29	0.43	0.52	0.55	0.57	26	42	30
	南無谷	11.7	10.5	11.3	0.32	0.31	2.89	0.54	0.56	0.61	37	35	28
	暖地園研	11.7	11.6	12.8	0.39	0.29	0.36	0.52	0.56	0.59	30	41	36
	平均	11.6	11.1	12.3	0.38	0.30	1.23	0.53	0.56	0.59	31	40	31

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁 100ｍｌ中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：３地区の平均値で平年値は平成５年～令和４年の平均(ただし硬度は平成 12 年～令和４年の平均)

２　最近１年間の気象及びビワの生育状況

令和４年７月～令和５年６月までの月別の気象を表４に示した。年平均気温は 16.4℃で、平年より 0.6℃高く、前年より 0.4℃高かった。降水量は年合計が 2,193㎜で、平年の 111%、前年の 109%であった。日照時間は年合計が 2,132 時間で、平年の 107%、前年の 101%であった。

花房の出蕾期は平年並みであったが、11 月の平均気温が平年より高く推移したため、開花は平年より早く進んだ。１月は平均気温が低く推移したが、２月以降は平均気温が高く推移したことから、収穫期は平年より早かった。

表４　令和４年７月～令和５年６月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R4	7	25.0	24.6	25.0	357	184	357	207	179	207
	8	26.4	26.0	26.4	210	110	210	198	218	198
	9	22.2	22.9	22.2	198	232	198	125	153	125
	10	18.3	18.2	18.3	295	274	295	159	138	159
	11	14.2	13.4	14.2	172	157	172	182	146	182
	12	9.0	8.7	9.0	139	97	139	202	165	202
R5	1	5.2	6.1	5.4	47	92	40	196	175	191
	2	7.9	6.6	5.6	130	87	113	151	154	170
	3	12.9	9.6	11.2	148	174	78	170	167	180
	4	15.9	14.0	14.9	135	169	70	207	177	157
	5	18.4	18.0	18.1	145	163	240	206	188	183
	6	21.9	20.9	21.4	220	229	95	129	135	163
平均/計		16.4	15.8	16.0	2,193	1,968	2,003	2,132	1,993	2,115

平年：1991～2020 年までの平均

８月～１０月の作業

８月下旬～９月下旬はせん定及び施肥の時期となる。花芽は９月中旬頃には確認できるようになる。10 月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10 月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

（１）せん定

８月下旬～９月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

（２）施肥

９月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では 10a 当たり成分量で窒素 12kg、リン酸９kg、加里９kg を施用し、耕土の深い園では窒素 11kg、リン酸９kg、加里７kg とやや少なめにする。

（３）摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、１樹の全枝の約 60％に花房を残す。

摘らいは花房基部から３段目までの小花梗の中から充実した２段を残して他をかき取る。花房の長さが３～５cm の時に摘らいすることで、開花期間を延長させ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室
【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html